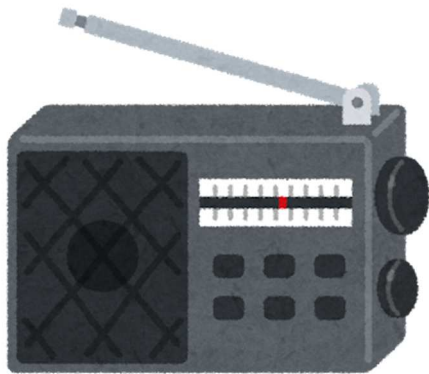


～ 寄稿文のご紹介 ～

大学院科目「教育老年学」の収録に参加して

★今回お寄せいただいたのは

全科履修生 三上 香子 さん



2021年の夏、客員教授の堀薫夫先生から「2022年度開講科目の聞き手をしませんか」とお誘いを受けました。堀先生は、過去にも名誉学生の人見麗子さんを聞き手にされたことがあります。そこで、私によければとお受けしました。

ところがその後、堀先生が主任講師をされるのは大学院科目であることを知りました。さらに聞き手の予定は6章もあることや、そのうち2章は他大学の先生が担当されるということを知りました。私は安請け合いをしたことを後悔しながら、11月に放送大学の本部がある千葉にきました。

収録は、放送・研究棟で午前と午後の2日間にわたって行われました。収録前に制作部のスタッフから「紙をめくる音が入らないように」「印刷教材のことを教科書と言い間違わないこと」などの注意事項がありました。私の緊張もクライマックスです。

午前中の他大学の先生との収録では、事前に授業の流れを詳しく書いた進行表をいただき、それをもとに入念に打ち合わせをしました。それでもいざ本番になると、自己紹介すら緊張で声が出ず、質問の回答も嚙んだり止まったりしてうまく言えません。



スタッフが「落ち着いて」「大丈夫です」と励ましてくださって、何とか収録を終えました。あとで先生方から「僕が欲しかった返答をもらいました」「三上さんがいてくれたおかげで助かりました」とお礼の言葉をいただき、安堵しました。

午後は主任講師の堀先生との収録でした。ところが堀先生は、まったく打ち合わせをしてくださいません。また、「知らないことは知らないと言えればいい。返答に困っ



て黙るのは一番よくない」と言われました。そのため収録では、いつどのような質問が飛んでくるのか予想がつかないだけでなく、質問にはすぐに返答しなければいけないというプレッシャーで潰されそうでした。

それでも自分の仕事に関する箇所は、頑張って答えました。収録が終わって堀先生が「まあこれでいいんじゃないですか」とおっしゃったときは、ほんとうに嬉しかったです。

収録の数日間は眠れない日が続きましたし、本番では失敗もしました。それでもすがすがしい気分で、私は千葉を後にしました。

そして新幹線の中で、改めて収録の経験は私の最高の思い出になり、宝物になったことを実感しました。貴重な経験をさせてくださった堀先生に、心から感謝します。

堀先生、ありがとうございました。



学位記授与式(令和5年3月25~26日・9月24日)と

卒業祝賀懇親会

副代表世話人 古川 徹



例年、1学期末(9月・秋)は学習センター、2学期末(3月・春)は本部主催(通常は東京都内)と、その翌日に学習センターにて学位記授与式が挙行されます。

古川は例年、本部主催の学位記授与式で皆様をお待ちしておりますが、今春の本部主催学位記授与式(3月25日・東京渋谷のNHKホール)では古川も卒業生(令和4年9月卒業)として出席しており、大学関係者として

お越しになった岡部洋一元学長も交えての記念撮影ができました(文末写真)。

翌日(3月26日)は大阪学習センターにて学位記授与式が開催され、これに続いてコロナ禍以来の対面開催(オンラインを含めたハイブリッド方式)となる卒業祝賀懇親会をオンライン2名含み10名参加にて開催いたしました。

